

『退院後の生活を見据えた支援』 研修会実施報告

日時 : 令和3年11月20日(土) 9:00~16:00

対象者 : ラダーⅡ~Ⅲを目指す者

参加者数 : 対象者33名 一般参加者3名

目標 : 退院調整に関わる看護師が在宅医療移行に向けてケアの視点や他職種・地域との連携を図り円滑な退院調整が行えるスキルを習得する

<講師の紹介>

医療法人良翔会 訪問看護ステーションみそら

小林 千恵子先生

大阪市桃山看護専門学校卒業

済生会奈良病院勤務

訪問看護ステーション勤務

訪問看護ステーションみそら設立

2018年 訪問看護認定看護師取得

2019年 特定行為研修受講

現在、特定看護師としてもご活躍されています



<内容>



最初に、講師から「退院支援をより現実的なものにするためには、想像力を高めること」と説明がありました。次いで、介護保険や要介護認定などの制度についてとてもわかりやすく講義して頂きました。

退院前カンファレンスとは、退院だけに焦点を合わせるものではなく、持続可能な生活を過ごすために何が必要なのかを考える事を目的とした話合いであること、そして準備が大切であることを具体的に説明して下さいました。グループワークや個人ワークでは、事例を用いて、退院後の生活をイメージしたプランを考えることも出来ました。患者、家族の思いに寄り添い、その人らしい生活を送るための支援は、病院側と在宅側の連携が重要であることも改めて実感しました。

講師からの「大切なことは死ぬまでのプロセス どこで死ぬのかよりも最期に誰かと過ごせた時間 そばにいて欲しい人は誰ですか」という言葉が心に響きました。在宅医療が推進される今、今回研修で学んだことを活かして、想像力を高めて、円滑な退院調整を行う必要があると思いました。